

て語り得るのみである。東京、寶文館發行。定價金七十五錢。(植田壽藏)

論理學(哲學叢書、第四編) 文學士 速水 滉著

思考作用を其の要素に分析し其の原理又は法則を研究する原理論(要素論)を第一篇とし、次に思考の原理、法則を根據として其の實際の應用を論ずる方法論を第二篇に據え、後者を更らに、學術研究の方法を論ずる研究法論と、研究の結果を整理統一して組織的のものとする爲す方法を論ずる、統整法論との二部門に區分し、第一、第二兩篇とも其の中に更らに數章數節が設けられて居り、此の外、緒論として『論理學の性質及び其の略史』が有り、附録として演習問題が添加されて居る。

的確な論理學の素養もない、そして又精緻の暇も得なかつた自分すら、やゝもすれば、倦怠の情を起し勝ちな斯學をかくまで平易に且つ、面白く讀ませる著者の學殖と老練とを充分に伺ひ得た様に思ふ。殊に例證の多い事や、演習問題のついておる事などは如何にも適當な思ひ付きだと考へる。『從來の所謂、形式的論理學が餘りに、形式に拘泥して思考の真相を忘れ、乾燥無味に流れて實用に迂遠な弊を脱し、一面に於て、哲學研究の學徒にとりて其の準備的階梯となり、二他面に於て一般の學問研究者が論理的思索の鍛練を爲すの需用に應ぜんことを志した』と言ふ著者の目的は遺憾なく遂げられたと言へよう。

『論理學は形式的科學であると言ふ故を以て、其の價値の乏しい事を力説するものもあるが是は誤見である、論者の言ふが如くな

れば、哲學的思索の如きも、解釋によつては形式的性質を脱し得ないものであるから、無價値のものとなるべきである。著者は、寧ろ形式的であるが故に、一切の學問研究者は其の研究を始める前に、先づ論理學によつて其の頭腦を鍛練する必要があることを主張する』との著者の主張にも共鳴を感ずる自分は、此の好著が廣い範圍に渡つて多くの讀者を得ん事を望むものである。東京、岩波書店刊行。定價壹圓貳拾錢。(深田武)

國際經濟論

服部文四郎著

本書、章を分つこと二十四、前十七章に於て一般理論の敘述を試み、後七章に於て各列強の國際經濟の現状及び政策を説いてゐる。國際間の經濟關係の密接と頻繁と今日の如くなるに拘はらず、我國に於てなほ未だ一編も此方面(此書の取扱つて居る様な方面)に關する纏つた研究の公にせられなかつたのは學界の不備であり實際界の不便であつたに相違ない。其缺點を補はむが爲に現はれたる本書が、よし其取扱つたる事項の一部分に限られて居るとは云へ、意義の大なるものある事は明白である。殊に約七百頁の大編、從ひて敘述は、よし冗漫な嫌はあるにしても、詳細にして懇切である。其上に其行論決して單に乾燥なる空理の上に立たず、常に生きたる實際を捕へ、事實それ自らをして理論を敍べしめたる點は、最も吾人に快い所である、讀者の理解を容易ならしむると共に其確信を強制する力が潜むてゐる。問題の性質にもよるとは云ふものゝ、著者の學殖と實際的智識の豊富とに依らずしては遂げ得難かつた事であらうと思ふ。